

## 2016年度『道具学論集』投稿規定

1. 刊行の目的：『道具学論集』（以下『論集』）は道具学に関する研究の発展に寄与するために会員の研究成果としての論文および作品を掲載発表するものである。
2. 投稿資格：『論集』に投稿できるのは、本学会の会員とする。共著の場合も、筆頭者は会員でなければならない。
3. 原稿の種類：募集する原稿は、③論文その他の書き物、および④作品とする。
  - ③. 論文その他の書き物には、以下の3種を含める。
    - (1) 審査請求論文——いわゆる原著論文
    - (2) 一般論文——道具学に関する内容の報告や研究ノート、論説、解説、見学記、観察記、著書紹介、発見・収集品紹介、学会への提言等、多様な形式の書き物
    - (3) 小論文——見開き1枚＝2頁に収めた、コンパクトな分量の書き物
  - ④. (4) 作品発表は、会員が中心となって企画、設計、デザイン、制作した道具・製品・作品等に関するもので、写真等の図版、およびその解説文を提出する。
4. 原稿頁数：(1) 審査請求論文、(2) 一般論文、(4) 作品発表は、投稿論文／作品発表の長さは、刷り上がりを想定し、原則として「1頁以上、10頁以内」とする（これまでの『論集』誌面を参照すること。1頁の文字数はタイトル周りおよび図版の無い場合で約2200字）。(3) 小論文は、「見開き2頁」とする。字数については別途エントリー者に送られるサンプルフォーマットを参照のこと。
5. 原稿の形態：文字原稿は文章作成ソフトにより入力し、図版原稿を別添して送付する。そのほか原稿の作成については「執筆要項」に従う。
6. 投稿エントリー：応募者は原稿の提出に先立ち、投稿の事前申し込み（エントリー）を行う。エントリー時には「氏名、仮タイトル、原稿種類（①審査請求論文、②その他論文（一般論文）、③小論文、④作品——のいずれか）、想定される頁数」を明記し、期日までに申し込む。
7. 投稿原稿の審査：投稿された論文、小論文／作品はできる限り掲載するが、編集委員会から原稿について訂正を求めることがある。また、審査請求論文（いわゆる原著論文）については、編集委員会が所管する審査で採否（掲載・条件付き掲載・不掲載など）を決定する。
8. 論集作成費：掲載された原稿には、作成費負担金として、以下の金額が請求される（投稿時には不要。論集完成後、頁数に応じて著者に請求される）。
  - (1) 審査請求論文、(2) 一般論文、(4) 作品——仕上がり1頁あたり、モノクロ1500円、カラー3000円。
  - (3) 小論文の場合には、仕上がり2頁で、モノクロ5000円、カラー8000円。また、抜き刷りが必要な場合は、執筆者の実費負担とする。
9. 事前エントリー締め切り：2016年10月20日  
（但し、審査請求論文以外は、柔軟に対応。投稿締切間際のエントリーでも受付可）
10. 投稿締め切り：(1) 審査請求論文→2016年11月20日（査読手配の都合上厳守のこと）、(2) 一般論文、(3) 小論文、および(4) 作品発表→2016年12月20日（但し、一般論文と作品発表は多少の延長可）
11. エントリー先／投稿先：道具学会 『道具学論集』編集委員会  
〒169-0074 東京都新宿区北新宿1-30-30 近鉄不動産柏木ハイツ 508  
Tel: 050-3754-7301 FAX 03-6685-4609 E-mail: info-dougu-tools.com

# 2016年度『道具学論集』執筆要項（入力の手引き）

1. 出稿時の構成 (a)文字原稿、(b)挿入図版、(c)レイアウト見本(図表の挿入箇所や、字下げ・インデント、ルビ・圏点指定、脚注箇所等がわかるもの)の3種を揃えて下さい。

## 2. 出稿ファイルの整え方

### (a)文字原稿(本文や、図版キャプション)

◎ファイル形式: 原則として、doc、docx(MS WORD)、あるいは、rtf(リッチテキスト)形式ファイルに限定します。

但し、手書き稿も受付可。その場合には、入力外注した実費を著者に請求いたします。

◎原稿の構成: 以下の順に整えて下さい。

①論文題目(日本語/英語併記)、②著者名(日本語/ローマ字併記)、③著者の所属(日本語/英語併記)、④英文要旨、⑤キーワード、⑥本文、⑦補遺、注釈、参考文献

但し、一般論文、小論文、作品発表の場合には、①～③の英語表記やローマ字表記、④英文要旨、⑤キーワードを省略しても構いません。また、①～⑤はいずれも原稿の第1頁に記述することとし、英文については堪能者の校閲を受けるなどして、著者本人が責任をもつようにして下さい。

◎頁数: 上の①～⑦と図表を含め、審査請求論文、一般論文、作品発表の場合には、原則として、刷り上がりで10頁以内(多少の超過可)、小論文については、刷り上がりで見開き2頁とします。頁あたりの文字量の目安は、過去の論集を参照して下さい。

◎入力方法: 基本事項⇒出稿ファイル上では、次項「入力上の注意」に記載のとおり、ソフト付属の諸機能を使わず、ごくプレーンなかたちで入力して下さい。また、図版も貼り付けしないで下さい。文字修飾やレイアウトに関する各種指定は、「(c)レイアウト見本」上で、お願いします。

組み方向⇒横書き(実際の誌面では本文2段ヨコ組みですが、入力の際には、1段ヨコ組み形式でも構いません)。行末は成りゆきで(「文字数/1行」「行数/頁」はご自由に)、改行は、段落ごとに入力願います(各行に逐次、改行を入力することは避けて下さい)。

採番方法⇒本文中の見出し番号のふりかたは、原則として、次くのように整えて下さい。

1…章番号 → 1-1…小章番号 → 1)…節番号(大きな区切り) → (1)…次に大きな区切り → ①…細目番号(列挙して説明する時など)

◎入力上の注意: 基本事項⇒出稿ファイル上では、入力ソフトに付属する以下の機能は、使わないで下さい。

■文字装飾(太字・圏点・ルビ・上付/下付文字等)、■各種レイアウト機能(自動字下げ、インデント、自動採番等)、■脚注機能

太字、ルビ、圏点などの文字装飾、字下げ、インデントが必要な場合には、別添していただくレイアウト見本上で、その旨の指示入れをして下さい。

脚注の入れ方⇒ソフト付属の脚注機能は使わずに、注番号は文中に入力して下さい。

[入力例] 社会学者のXXXXは、こうした潮流を「○○○○」と言っている(注2)

また、注の内容は、文末に番号順にまとめて下さい。

参考文献中の表記(順序)⇒《著者名 → 論文等のタイトル(「XXX」) → 掲載誌名(『○○○』) → 巻 → 号 → 出版社・発行元 → 発行年 → 掲載頁》の順で、整えて下さい。

[入力例] 山口昌伴「鏡とはなにか」『季刊道具学』12号、道具学会、2005年、pp.XX-XX

図版キャプションの入力方法⇒本文とは別ファイルにまとめても、本文ファイル中に添える形式(文字色を変えるなどして、本文と見分けやすくして下さい)でも、どちらでも構いません。

### (b)挿入図版

◎ファイル形式: 原則として、jpeg、tiff、psd、epsあるいはPDF形式とし、使用サイズ(目安: 1段は、横8センチです)で、解像度350～400dpiを保つようにして下さい。解像度の整え方がよくわからない場合、あるいは解像度不足の図版しかお手元に無い場合には学会事務局までご相談下さい。但し、表やグラフ、イラストについては、エクセル(xls、xlsx)、あるいは、イラストレーターファイル(ai/但し、CS3以下で保存)でも構いません。

・提出方法: 写真、図表、グラフとも、文字原稿ファイル上には貼り付けずに、個別の画像ファイルで(デジタル化が不可能な場合には紙焼きで)、別添して下さい。また、各ファイルには、編集制作サイドで判別のつきやすいファイル名を付けて下さい(例: 図1\_鉄.jpg、表1\_ユーザー数の変遷.xls……)。

### (c)レイアウト見本

・提出形式: プリントアウトでも、手描きでも、PDFでも。制作側でご希望の体裁が一見して判るものなら、どんな形式でも可。

(a)の文字原稿データに、入力ソフト付属の装飾・レイアウト機能をご希望の通りにフルに施して、図版も適所に貼り込んだものを別途作成し、そちらを「レイアウト見本」として添えてくださっても構いません。

## 3. 出稿方法

◎出稿ファイル一式は、①CD-R/DVD-Rに収めるか(FDDやMO等の旧媒体や、USBメモリ、SDカード等、後日の返却を要するものは原則として不可)、または、②データ転送サービスを通じて、あるいは、③データ容量が軽い場合にはEメールにて、事務局まで送付して下さい。

◎記憶媒体には、執筆者名、タイトル、作業環境(OSおよびバージョン)と収録ファイル名を表記してくださると助かります。

4. その他注意 提出後の加筆・修正は、審査請求論文において査読後に必要とされる場合を除き原則として認められていません。但し、ちょっとした誤字・入力ミスに気づいた場合などの軽微な修正や、最終レイアウト確認の依頼については、早めの申し出があり、なおかつ頻回でなければ、例年、柔軟に対応いたしております。